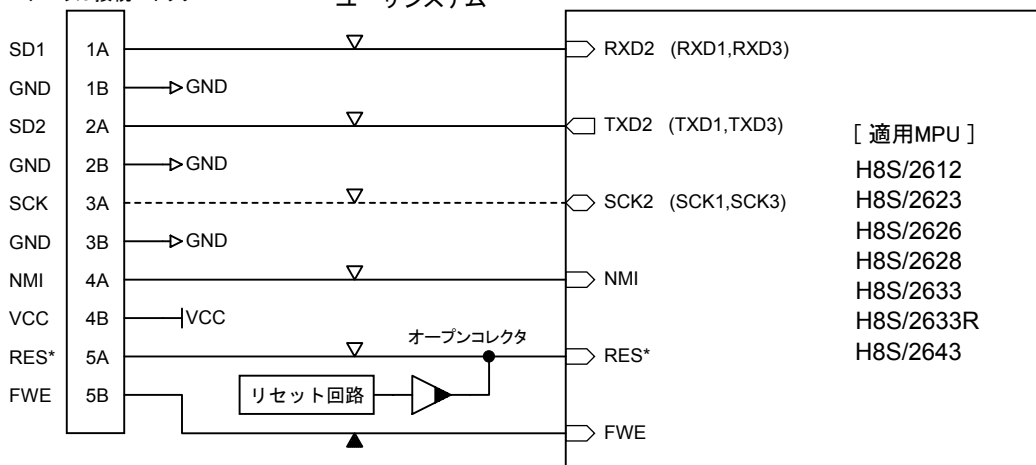


【 接続例18 】 H8S/2612, 23, 26, 28, 33, 33R, 43の場合 (H8S/2600シリーズ)

Hデバッグ接続コネクタ

ユーザシステム



- ▽印はプルアップ抵抗です、▲はプルダウン抵抗です。抵抗値は4.7K~22Kの範囲を推奨します。
- RXD2, TXD2, SCK2はモータ組込後であればCPU設定によりSCI1又はSCI3のシリアル信号に変更して使用できます。(H8S/2633, 2633Rの場合のみ変更可能です。)
- リセット回路の遅延時間は、200mSEC以下になる様ハードを設計して下さい。
- CPU動作モード(ブート・実動作)設定回路は、ユーザ(ターゲット)側で用意して下さい。
- CPU設定でターゲットI/Fを調歩同期／クロック同期の選択ができます。
調歩同期側に選択した場合は、SCKを開放にして下さい。